

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-68	中学校	外国語	英語	第2学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	英語002-82	NEW HORIZON English Course 2		



Over the
NEW HORIZON

1 編修の基本方針

GIGAスクール構想対応

英語でつながる心豊かな体験を、みんなで

この教科書は、日本で英語を学ぶ全ての生徒たちが、生涯を通して国際社会で心豊かに暮らすために必要な学びを編修しています。「中学生」の発達段階に十分に配慮しつつ、英語を使って「自分の言葉」で他者とコミュニケーションできる喜びを実感してもらうことを最重要視しました。特に留意したのは次の2点です。

- 英語という言語を通じて、他者とつながる素晴らしい「体験」をたくさん積み上げること
- その活動を通して身につけた技能で、積極的に世界とつながろうとする「心」を育てること

その実現に向けて、誰もが学びたくなる楽しい仕掛けを紙面とデジタル教材に多数用意しています。

2年生のテーマ

もっと英語で伝え合おう!

日本で暮らす中学生が、地域や世界の魅力を伝えたいようなご当地名物や世界遺産の話題を取り上げました。

特色

1

小中高接続
重視の教科書

学びの「のりしろ」

特色

2

単元末活動
重視の教科書

学びの地図

特色

3

ダイバーシティ
重視の教科書

学びの多様性

Book 2で、中学生たちは次のように学ぶことができます。

特色

1

小中高接続重視の教科書

GIGAスクール構想に対応して、中学生たちが英語学習の必須アイテムだと思えるような、新たなデジタルコンテンツと学びのメソッドを取り入れました。

Book 1では、英語の音にしっかりと慣れ親しんだ小学生たちが入学後に会った中学校英語の世界で、音と文字を結び付けたり、英語の文の構造への気づきを法則として学ぶなどしながら、身近な話題で英語を使ってコミュニケーションする体験を積み上げてきました。その結果、中学校に入学したころは、自分と相手のことを伝えていましたが、1年生の後半になると第三者のことも伝えられるようになり、話題も身近なことから世界で活躍する憧れの人のことに広がるなどして、生徒たちの「心」は確実に成長していきます。その成長を受け止め、Book 3の3年生につなぐ教科書であるために、Book 2では次のような教科書の使い方ができるようにしています。

1 Unitの本文で扱った題材のご当地版をデジタルマップでより豊かに

日本全国津々浦々の名物、名所など、中学生をはじめ、誰もが語りたくなる話題を教科書本文で取り上げています。さらに、その話題を中学校の学習指導要領で扱う範囲の言語レベルで広げたり深めたりできる多読教材をデジタルコンテンツに掲載しています。デジタルマップの書棚から読める英文は教科書本文をベースに作っているため、教科書本文の英語に何度も触れて定着させることができます。また、発信活動の例文として活用できます。

紙 Unit 2 (pp.19~26)

デジタル デジタルマップ

紙 Unit 2 (pp.19~26)

デジタル デジタルマップ

Unit 2
What is local food?

Read and Think 1
Before You Read
Various Ramen Flavors in Japan
If you're interested in Japanese food, don't forget ramen!

Unit Activity
イチオシのご当地グルメを紹介しよう
It stays warm here enjoy it in cold sweet corn!
Local noodle from mountains in the morning last.
Hokkaido Ramen in Hokkaido
I especially like Hokkaido ramen because the creamy tonkatsu soup has a rich taste. It is very popular. It uses a pork bone-based soup. The recommended toppings are chashu and ginger.
You can choose the firmness of your noodles. And you can get extra noodles if you want. I think you'll like it!

デジタルマップの書棚
Charentz Apartment is a very popular place in Okinawa. "Charentz" means "beautiful" in the Okinawan language and "Apartment" means one. The apartment has a large fish tank with many creatures from the Okinawan sea. While sharks there are especially famous. One of the whole sharks is 2.8 meters long. Visitors can see the beautiful sea life and enjoy riding golf carts there.

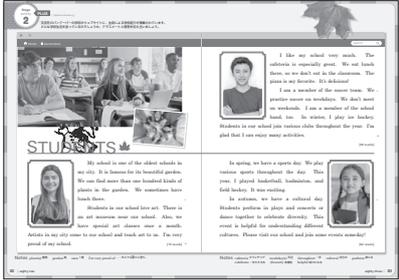
※日本語訳や確認クイズもあります。スローラナーにもファストラナーにも有効です。

※生徒は紙面に紐づく全国のご当地紹介文から、関心のあるものを選び、素材のヒントとして参照しながら自己表現活動を行うことができます。また、他の国や地域の学校どうしてオンラインで地域紹介の交流をする際など、伸縮自在に、個別最適に活用できます。ほかにも、夏休みなどの多読教材にもなります。

2 Language Focusで辞書を活用しながら日英の言語を比較し、思考する

Read and ThinkのLanguage Focusがあるページのコードを読み取ると、該当する辞書のページが出てきます。ここでは本文の中から、ラーメンのスープが“thick”という形容詞で表現された部分を取り上げ、当てはまる意味を推測したり、辞書で調べたりする活動ができます。

2 対照表

図書の構成・内容	留意点	具体例
<p>全体</p>	<p>①基礎・基本となる文や文構造、文法を系統的に学ぶと同時に、それらを単なる知識としてではなく、目的・場面・状況に合わせて活用できるコミュニケーションの力として育成することをめざしています。(第1号)</p> <p>②各Unitで取り上げる題材を通して、異なる文化の発想や考え方を知り、広い視野でものごとをとらえる力や相手の立場に立って理解しようとする態度を育成します。(第1号)</p> <p>③生徒の心情に訴える題材を取り上げ、思いやりや生命の尊さ、郷土を愛する心、国際理解などの道徳心を培うように配慮しています。(第1号)</p> <p>④学年3回の節目で行うStage Activityや巻末には、生徒の興味関心に広く訴える語彙集や資料があり、豊かな自己表現を促します。(第1号)</p> <p>⑤Real Life Englishでは、言語の使用場面や働きを踏まえたコミュニケーション活動を行い、実生活に生かすことができます。(第2号)</p> <p>⑥Unitでは保育園での職業体験を取り上げ、勤労意識を醸成するとともに、後続のReal Life Englishでスポーツ選手のインタビューを、Learning Technology in English (CLIL) では様々な場面で活躍するロボットを扱い、AIが普及する時代に人間が働くことについて深く考えるようにしています。(第2号)</p> <p>⑦学校での活動や他教科の学習に配慮して教材を配置しています。生徒は、自らの学校生活と重ねて学習が進められます。(第2号)</p> <p>⑧対話的な学習を促すために、ペアやグループで取り組む活動を豊富に用意しています。Unitで学習したりサーチの方法を生かして自分がりサーチしてプレゼンテーションする活動では、相手意識を持って伝えたり、協力し合ったりする態度を育みます。また対話の方法として、意見を伝え合うディスカッションも取り扱っています。(第3号)</p> <p>⑨イラストや写真を含め、ジェンダーにとらわれることなく男女が協力して生きる様子を取り上げています。また、誰もが住みやすい社会をめざす取り組みを題材として扱っています。(第3号)</p> <p>⑩自然を大切にしたり、環境の保全を強く意識したりするような題材を取り上げています。(第4号)</p> <p>⑪世界に日本の良さを発信しようとする生徒を育成するために、伝統や文化、自然に関する題材を取り上げています。(第5号)</p> <p>⑫国語との関連を図り、日本語との関連から、英語について学べるような資料を掲載し、言葉への豊かな感性と情操を育成します。(第5号)</p> <p>⑬グローバル社会で生きることを意識し、海外の生活や文化を理解した上で、尊重する心を育み、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養います。(第5号)</p>	<p>①p.9 Unit 1 「What can we experience on a trip?」の Preview, p.10、11、13、15のActivity 1~4、p.16のUnit Activity</p> <p>②pp.9~16 Unit 1 「What can we experience on a trip?」 pp.49~56 Unit 1 「What is important in a homestay?」</p> <p>③pp.84~87 Let's Read 2 「A Glass of Milk」</p> <p>④pp.40~43 Stage Activity 1 「My Favorite Japanese Food」</p> <p>⑤p.17 Real Life English Scene 1 「機内放送」</p> <p>p.27 Real Life English Scene 2 「旅行先でー許可を求める・依頼するー」</p> <p>p.57 Real Life English Scene 4 「ホームステイのお礼状ー手紙ー」</p> <p>⑥pp.29~36 Unit 3 「What kind of job are you interested in?」</p> <p>p.37 Real Life English Scene 3 「仕事についてのインタビュー」</p> <p>p.38 Learning Technology in English</p> <p>⑦pp.80~83 Stage Activity 2 「My School and School Life」</p>  <p>⑧pp.69~76 Unit 6 「How can we make a good presentation?」</p> <p>pp.100~103 Stage Activity 3 「Let's Have a Discussion」</p> <p>⑨pp.59~66 Unit 5 「What design is good for everyone?」</p> <p>⑩pp.104~108 Let's Read 3 「Pictures and Our Beautiful Planet」</p> <p>⑪⑫pp.89~96 Unit 7 「What are World Heritage sites and their problems?」</p> <p>⑬p.4 学び方コーナー2 「相手に伝えるように音読したい」 pp.110~112 Further Reading 「I'll Always Love You」</p> 

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

観点	留意点	具体例
<p>①特別支援教育への配慮</p>	<p>①手書きを想定した部分では、視認性に優れ、かつ書きやすさに配慮した、小学校やBook 1と同じ書体を使用しています。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">Dear Mr. and Mrs. Wilson and Kevin,</p> <p>②本文やNew Words、Key Sentencesなど、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているため、学習の流れを見通すことができ、安心して学習に取り組むことができます。</p>	<p>① p.57 Real Life English Scene 4 「ホームステイのお礼状ー手紙ー」</p> <p>② pp.9~16 Unit 1「What can we experience on a trip?」</p>
<p>②ユニバーサルデザインへの取り組み</p>	<p>Unit、Stage Activityの2つのメイン単元があり、それに付随してより実践的な英語力をつけるためのReal Life EnglishやLet's Readも配置されています。Unit内の単元末活動(Unit Activity)を積み重ねることで、学期末のStage Activityへと到達できます。このように構成を規則的にし、学習のユニバーサルデザイン化を図っています。</p>	<p>pp.2~3 目次「学習の見通しを立てよう」</p> <p>p.27 Real Life English Scene 2 「旅行先でー許可を求める・依頼するー」</p>
<p>③造本上の工夫</p>	<p>①GIGAスクール構想に対応して、視聴覚教材での学びが適しているものは紙面からデジタルコンテンツに移し、A4判の紙面には余白を残して、生徒が手書きでの書き込みができるようにしています。また、指導時数も全体で10時間削減し、140時間の7割で指導を終えて、残りの3割は端末を使った個別最適な学びに充てることを前提に、過度な負担を極力おさえるように編修しています。</p> <p>②ページ数を抑えた上、最大限に軽量化された、薄くても裏写りしにくい用紙を使用しています。</p> <p>③特殊な糊を使って製本し、ページが大きく開くため、外側に折り返して手に持っても、ページがはがれず、堅牢なつくりです。</p> <p>④印刷は鮮明で、豊富な写真やイラストを効果的に配置しています。</p>	

(2) 今日的な課題への取り組み

観点	留意点	具体例
①防災・安全	3年間を通して関連する教材を扱うなどして、防災や安全の視点を重視しています。	pp.59~66 Unit 5 「What design is good for everyone?」
②環境・資源・エネルギー	Unitでは自然や文化を守る取り組みを、Let's Readでは今日我々が直面する環境問題を、テーマとして大きく扱っています。	pp.104~108 Let's Read 3 「Pictures and Our Beautiful Planet」
③多様性・人権への配慮	題材や人物の出身国は、英語圏や非英語圏、日本とできるだけ 多様な世界の国々からステレオタイプを避けて設定 しています。それぞれの国の良さや違いを感じたり、言語や文化に対する理解を深めたりできるようにしています。また 男女のバランス にも配慮しています。	扱う国や人物：シンガポール (Unit 1)、イタリア (Unit 2)、アメリカ (Unit 4)、インド (Unit 7)、南アフリカ共和国出身の白人エディ、中国系カナダ人のチェン先生ほか
④伝統・文化	日本の伝統・文化の良さを海外に発信 したり、外国発祥ながら日本で独自の発展を遂げた料理などを紹介し、 新たな視点から自国への理解 を深めたりします。	pp.89~96 Unit 7 「What are World Heritage sites and their problems?」
⑤SDGs・道徳教育との関連	①多様な国々を取り上げることで、世界へ目を向け、視野を広げ、 平和・国際貢献の精神 を育てることができるようにしています。 ②ペアやグループの学習、発表するときなど、 相手意識 を持って伝え合い、伝わる喜びを感じられるように配慮しています。	① pp.9~16 Unit 1 「What can we experience on a trip?」 ② pp.100~103 Stage Activity 3 「Let's Have a Discussion」
⑥小中高の連携	①小中高の連携を図るため、学習指導要領をもとにした 東京書籍版CAN-DOリスト を作成し、それに則って学習目標を設定しています。 ②2年生では、 段階的なリーディングの語数増と課題設定 に加え、単語の覚え方や音読の仕方などを解説しています。	①巻末CAN-DOリスト ②p.4 学び方コーナー1 「単語を効率的に覚えたい」・2 「相手に伝わるように音読したい」
⑦言語力の育成	①相手に伝わる読み方を学習したり、親しみのある物語の英語の原典を読んだりなど、 国語を意識した学習 ができるようにしています。 ②インタビューしたことをレポートにまとめたり、相手意識を持って意見を述べたりするなど、 国語における留意点と共通性 を持たせ、連携を図っています。 ③ 非連続型テキストの読解力の育成 にも配慮し、グラフの読み取りなどを取り上げています。	①p.4 学び方コーナー2 「相手に伝わるように音読したい」 pp.110~112 Further Reading 「I'll Always Love You」 ②③pp.72~75 Unit 6 「Read and Think 1・2」 クラスメートが書いたフィードバックシートを読み取ります。

(3) 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

観点	留意点	具体例
①先生がたの働き方改革への貢献	① 1ページあたり1時間を基本 とし、時間配当や年間指導計画を把握しやすい構成にしています。 ②各Unitのパート構成を同じにしているため、 学習の流れを見通し しやすくなっています。 ③Unitでは扉の写真を使ってオーラルイントロを行うことができ、単元の導入から英語を使えるため、全体として「 英語で授業 」がしやすい流れを作っています。 ④UnitのタイトルでもあるUnit Questionの発問は、Unitを通して考え続ける内容となっており、 題材を通して英語の「見方・考え方」 を身につけ、学びを深められるように配慮しています。 ⑤活動で発話・対話したり、書いたりする際の 例文を紙とデジタルに示し 、指導の際にも生徒自身が学習する際にも活用できます。 ⑥Stage Activityでは、カナダの中学生からのビデオレターでやり取りする設定で、写真や動画で 生徒の活動の姿が見える ようにしており、 国際交流の疑似体験 ができるようにしています。	①pp.2~3 目次「学習の見通しを立てよう」 ②③④ pp. 89~96 Unit 7 「What are World Heritage sites and their problems?」 ⑤⑥pp.80~83 Stage Activity 2 「My School and School Life」
②カリキュラム・マネジメント・地域連携	①他教科と特に関連を図ったページにはマーク⑧を示し、該当の内容を多面的に、より深く学べるように配慮しています。 ②デジタルコンテンツを活用しながら個別最適な学習ができるように、紙面の文字量を調整し、生徒が自分自身の学習活動に能動的に関わりたくなる工夫を随所に施しています。デジタルマップは地域での方針に沿って伸縮自在に 複式学級 や 少人数授業 、 家庭学習 に活用できる読み物教材です。	①p.38 「Learning Technology in English」 p.68 「Learning Social Studies in English」 ②デジタルマップ (多読用ご当地リーディング)
③GIGAスクール構想の推進(個別最適な学び・協働的な学びのために)	①紙面に付した二次元コードを機器で読み取ることで、 本文と語句欄の音声 (スピード変更、スラッシュ読み、カラオケ機能、マスク機能付き)や 文法解説動画 などを視聴できるため、学校でも家庭でも音声や動画を活用した学習ができます。 ②Unitの最初に配置しているPreviewには、二次元コードからアニメーションと音声を視聴できるので、そのUnitで扱っている文法項目を使う「目的・場面・状況」を予想することができ、 意味のある文法学習の導入 となります。 ③ 制度化された学習者用デジタル教科書 の使用によって、必要な部分を大きくして見たり、音声へのアクセスが簡単にできたり、日本語訳を活用した学習ができたりするため、英語学習の最適な学びの環境を全ての中学生に保障します。	①p.1 「デジタルコンテンツを学習に活用しよう!」 ②p.9 Unit 1 のPreview

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配合授業時間数表)

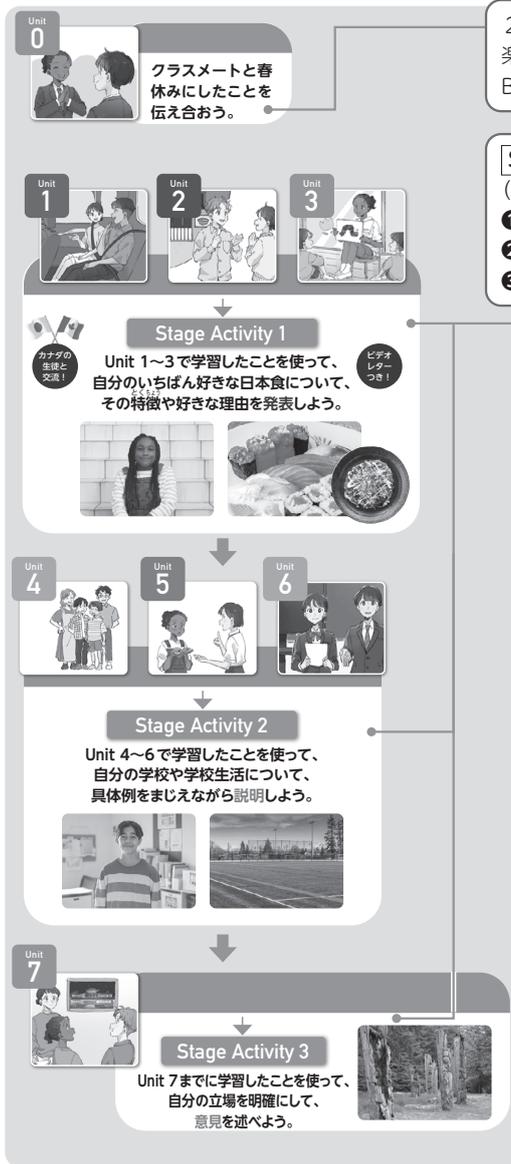
受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-68	中学校	外国語	英語	第2学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
2 東書	英語002-82	NEW HORIZON English Course 2		

1 編修上特に意を用いた点や特色

中学2年生の学びから、**誰一人取り残さない英語教育**をめざした教科書です。
令和の日本型学校教育を実現するために、この教科書には次のような工夫があります。

1 Activityを積み上げて単元末のゴールの姿を評価

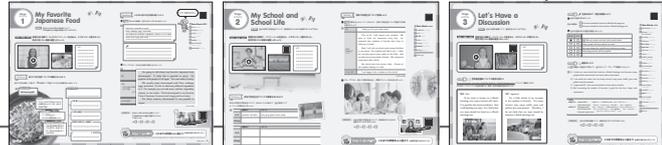
年間指導計画（縦軸）の流れ



2年生の新学期。最初はクラスメートと春休みについて楽しく英語で伝え合うことからスタート。Book 1の表現を振り返ります。



Stage Activity 年間で大きな3つのテーマでまとめる、バックワードデザインでタスクを構成（カナダとの交流を疑似体験）
①自分のいちばん好きな日本食
②自分の学校や学校生活
③ディスカッション



— 活動を積み上げる手順がわかり、学習が見通せる全体構成 —
この教科書は、年間指導計画（縦軸・左図）と単元のまとめ（横軸本資料p.7）とが、有機的に規則性・系統性を持って設計されています。この構造のもとで、学習の流れはパターン化され、目標（入口）と評価（出口）の場所が明らかになるため、CAN-DOリストに沿ったわかりやすい手順で、確実に力をつけることができます。各Unitの流れ（横軸）については本資料次ページ参照。



[5領域をバランスよく育成]

単元	パート	聞く	読む	やり取り	発表	書く	
Unit	Preview	◎					単元導入のためのリスニング
	Part 1・2	○	◎	◎	○	○	本文と、場面のある代入練習
	Before You Read/Read and Think 1・2	○	◎	○	○	○	Partの本文を受けて、読み物(Read and Think)を読むに至る目的・場面・状況を導くリスニングと本文
	Unit Activity	○	○	○	◎	◎	単元末活動
Stage Activity		○	○	◎	◎	◎	4技能統合、定番テーマでのまとめ
Real Life English/Let's Read		◎	◎	◎		◎	実生活密着の英会話など/読書
Grammar for Communication		○	○	○		○	文法の整理

英語で伝え合う生徒の「体験」を積み上げる教科書です。

音声で「導入」、重要表現で「展開」、単元末活動で「まとめ」、見通せる単元配列で目標と評価に対応します

単元のまとめ（横軸）の流れ

- 語彙・言語の使用場面と働き・題材を、各学年テーマのもとで難易度の低いものから徐々に高いものへと系統的に繰り返して練習できるので、生徒は学びが積み上がる実感を持てます。
- 技能別、あるいは4技能を適宜統合・総合する活動をそれぞれのパートで繰り返し行うことで確実に定着を図ることができ、単元末活動のUnit Activityでついた力を確かめられます。
- 単元末活動で使いたい表現は本文に立ち返ってヒントを探すことができるように、下図のActivity1～4・Unit Activity・Stage Activityのタスクと本文を設定しています。

目標の明示

好きな食べ物について、理由や考えと共に紹介することができる。
Unit Activity (p.26) 【イチオシのご当地グルメを紹介しよう】

Read and Think 1
Part 1・2
[展開①: Part 1 p.20]
[展開②: Part 2 p.21]

Read and Think 2
[展開③: Read and Think 1・2 pp.22～25]

Unit Activity
積み上げ5: 生徒の姿を評価
Activity 1～4 で表現したことを生かして、イチオシのご当地グルメを紹介する記事を書く。

Stage Activity
[まとめ②: Stage Activity pp.40～41]
パフォーマンス評価
[まとめ①: Unit Activity p.26]

Stage Activity=My Favorite Japanese Food
積み上げ6: 生徒の姿を評価
自分の好きな日本食について、カナダの中学生とのビデオレターのやり取りの疑似体験を通して伝える。

Activity 1 (😊)
積み上げ1
自分が特に好きな食べ物について、本文を参考にして言う。

Activity 2 (💬)
積み上げ2
Activity 1 で選んだ食べ物、どんな食べ方ができるか、ペアで伝え合う。

Activity 3・4 (😊✍️)
積み上げ3・4
Activity 1 で選んだ食べ物について、具材や食べる季節、どのくらい人気かなどについて話したり書いたりする。

巻末の資料編のpp.135～141 Unit Activity Plusには表現のヒントとなる例文や資料があります。コードから音声も聞けます。

Unit Activity Plus 2
イチオシのご当地グルメを紹介しよう

単元を貫く Unit Questionに対応した書き込みスペースがあります。

Unit Question
What is local food?
Writing Tips 2-1
具体例を添えよう-1
好きな食べ物に関する情報を提供し人々に好評を得てもらう方法に注目しよう。 For example 「焼きそば」の表現が使えるよ。

2 自己表現を助ける資料をデジタルでも！

- 伝えたいことを工夫して、「自分の言葉」にできる表現集・用例辞典 —
- デジタル用例辞典は教科書本文を用例のモデルとして呼び出せる機能です。生徒は3学年分の用例を見ることができ、収録語数は約1,000語、収録表現数は約300種類です。

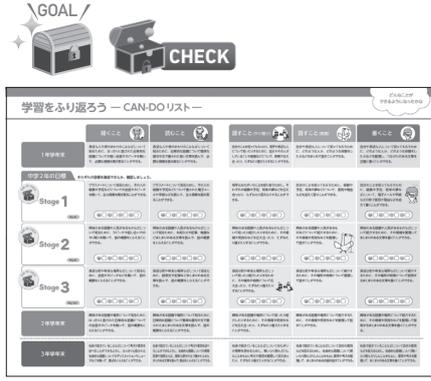
3 即興力を育成するための様々な仕掛け

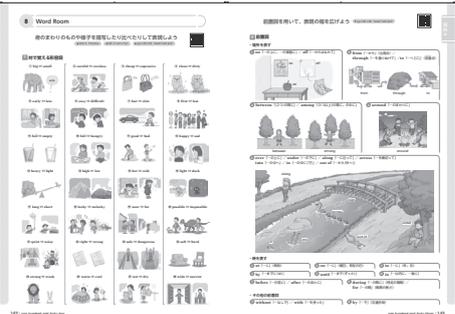
- 教科書を学ぶのではなく、教科書で学ぶために —
- 巻末のSmall Talkは、帯時間や休み時間に、気軽に英語が生徒の口から飛び出すような教室をイメージして設けたページです。自由に、楽しく、即興で話せるための練習用コンテンツもデジタルに用意しました。教科書本文に絡めて、中学生が話したくなるようなテーマで表現を特集しています。

ページを参照しやすいように、紙質を変えています。

[pp.145～147]

観点別特色の一覧

観点	具体例
<p>1 教育基本法の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書の内容全体を通して、グローバル時代に生きる全ての中学生に求められるコミュニケーション能力を育みます。英語を学ぶことで身につく見方・考え方が国や文化の違いを越えて人と人を結び豊かなコミュニケーションをもたらす可能性に気づき、グローバルな視点での発言や行動に結びつけていくことをめざしています。(全体) ●国際社会の一員として、自国の伝統・文化を尊重するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしています。(pp.89～96 Unit 7、pp.104～108 Let's Read 3 など) ●教育基本法の第2条を遵守しています。(本資料p.4参照) 
<p>2 学習指導要領の遵守</p>	<p>▶ 「目的や場面、状況」に 目的・場面・状況 についての意識を促すアイコン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学校学習指導要領(外国語科)に示された目標に則り、コミュニケーション能力の育成をめざし、その基礎となる言語材料の知識と技能を基盤とし、生徒が自分で思考し、判断したことを適切に表現できることを深い学びととらえ、順を追った活動を組み込んでいます。(全体) ●文法はコミュニケーションを支えるものとして、どのような目的や場面、状況で使われるかを生徒が理解することを重視しています。(Unit 1～7 Previewなど) ●英語で意思や情報を伝え合う対話的な活動や協働して問題解決にあたる活動を充実させ、対話的な学習を促しています。さらに、話されたり書かれたりしたことの意図や背景を推測したり、自分の考えを深めてそれを表現につなげたりするようなコミュニケーション活動を充実させています。(Unit 1～7 Unit Activityなど)
<p>3 内容・系統</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●3年間の学びを見通した上で、中学2年生での到達点(ゴール)を示しているため、豊富な言語活動を通して明確な到達点に向かって学習を進めることができます。(pp.2～3 「学習の見通しを立てよう」、巻末口絵「学習をふり返ろう—CAN-DOリスト—」) ●全ての単元の冒頭に必ず到達点(ゴール)を単元の目標とセットで示しています。また、Unitの単元末活動として配置されたUnit Activityの最後にも同じ文で、振り返りや自己評価を行うチェック欄をアイコンとともに載せています。 ●生徒が学びたくなる題材、やってみたくなる活動を豊富に取り上げ、積極的に英語を使う授業の場づくりに資するようにしています。 ●Unitの各パートの最後にくるActivityを積み上げ、その各パートで積み上げた「自分の言葉」を生かして、単元末活動のUnit Activityでまとめます。さらには、年3回設定されている大きなテーマを扱うStage Activityに向かって、活動を系統的に積み上げていく構成です。 <p>Activity (Unit内の各パート末) ⇒ (積み上げて) Unit Activity (単元末) ⇒ (積み上げて、複数のUnitを統合・総合して) Stage Activity (年3回) という順で、全体を通してStage Activityに向けて活動を系統的に積み上げています。いずれもパフォーマンス評価を行うことができます。(本資料p.7参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Grammar for CommunicationではUnitで扱った複数の言語材料を再度、目的・場面・状況を重視して整理し直して、Use(使い方)→Form(形)→Let's Try!(使ってみよう)の流れで適切に使えるように練習します。  
<p>4 組織・配列・分量(スパイラル・学年間接続など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織・配列 ●全てのUnitは、既習事項をスパイラルに学習できる構成になっています。Unit 0は1年生の学習を引き継ぎ、Unit 1～7では紙面の二次元コードから2年生の初出の文法を扱った文法解説動画を見たり、デジタルクイズで理解度を確認したりすることができます。1年生のコンテンツに戻ってつまづきポイントを理解し直すこともできます。どのUnitも、音から導入して文字に向かう順序で4技能5領域全てをバランスよく扱います。(本資料pp.6～7参照) ●「学び方コーナー」では英語学習のポイントやコツをいつでも参照できる巻頭にまとめ、生涯英語を学ぶ主体的な学習態度を育成することをめざします。2年生では、単語を効率的に覚えるための語句のまとめりや聞き手を意識した音読などを扱います。(pp.4～5) ◆分量 ●小学校英語が教科化されたことを重視し、また実社会で目にする英文に触れられるように、教科書で扱う分量を段階的に増やしています。同時に、高等学校への接続を考え、高校入試で扱われる分量を想定して英文の量や活動の種類についても充実させています。(全体)

観点	具体例		
<p>④ 組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●語彙は、小中学校の教科書やCEFR-Jの語彙リストのA1レベルを中心に選定しています。小学校で学習したとみなされる語を630語と設定し、それに中学校の新出語約1,700語を加えた約2,300語を扱っています。(pp.113～128 Word Listまたは本資料下図参照) ●上記約2,300語のうち小学校既習語から392語、中学校新出語から408語の合計800語を「発信まで使えるようになりたい語」と設定し、Word Listで太字で示しています。この800語は、全ての生徒の発信語彙として繰り返し提示して定着できるようにしています。(下図★印参照) ●中学校新出の1,700語は、教科書本文だけでなく本文以外の部分で扱う語も含めることで、生徒の負担を軽減しています。(資料編Word Roomなど) <p style="text-align: center;">小・中学校で扱う語約2,300語 ※★は「発信まで使えるようになりたい語」(合計800語)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 小学校の既習語 630語 (★392語) </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 中学校の新出語 約1,700語 本文 約1,200語 (★408語) 本文以外 約500語 </td> </tr> </table>	小学校の既習語 630語 (★392語)	中学校の新出語 約1,700語 本文 約1,200語 (★408語) 本文以外 約500語
小学校の既習語 630語 (★392語)	中学校の新出語 約1,700語 本文 約1,200語 (★408語) 本文以外 約500語		
<p>⑤ 基礎的・基本的な知識、コミュニケーションの4技能5領域の定着の配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●CAN-DOリストに基づき、3学年を通して4技能5領域の技能が確実に育成できるようにバランスよく教材を配置しています。(本資料p.6参照) ●「Unit」・「Stage Activity」・「Real Life EnglishとLet's Read」の3つの主要単元で、知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力等の育成をめざします。いずれの単元でも、言語を使用する目的・場面・状況を意識して活動に取り組めるような仕組みにしています。(本資料p.6参照) 		
<p>⑥ 資質・能力の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●変化の激しいグローバルな社会で生きていくための資質・能力を重視し、英語を通じて異文化理解を深めたり、多様性を認めたりするとともに、他者への共感や思いやりを持って共生社会の実現をめざす態度を育成します。(全体) ●各学年にテーマを設け、題材で扱う範囲を身近な話題から社会的・世界的な話題へと段階的に重心を移しています。2年生のテーマは、「もっと英語で伝え合おう」とし、1年生の学びを生かしてもっと英語で世界の人々とコミュニケーションを行い、よりいろいろな国々の文化や歴史に触れることによって、自国である日本の魅力についても視野を広げてほしいという願いを込めています。(全体) ●技能と文法を車の両輪のように考え、学習段階に合わせた活動を扱っています。活動を通して、使える英語が身につくようにしています。(本一覽表p.8の③参照) 		
<p>⑦ 学習方法・授業展開への配慮（アクティブ・ラーニング、ALTとのTeam Teachingなど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各紙面において学習要素を定位置に置き、特別支援教育への配慮をしています。Unitでは本文下に基本文（Key Sentences）と練習（Practice）、本文横に語句欄（New Words）を配置し、関連する活動は見開きの右側に配置しています。語句欄の上にある二次元コードからは、本文と語句欄の音声のほか文法解説動画やデジタルクイズなどにアクセスできます。(p.10 Unit 1など) ●英語で授業を行うことに配慮し、ペアやグループ活動を充実させたり、帯活動で継続的に行って即興的なやり取りの力をつけたりするためのSmall Talkのページを設けたりしています。(pp.145～149) また、ALTとのTeam Teachingを重視して、ALTと伝え合いたくなる話題を多く取り扱い、教師用指導書には発問の英訳を掲載します。 		
<p>⑧ 学習の習慣化への取り組み（規律・態度など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●資料編のWord Roomでは、紙とデジタルの両方に語彙をジャンル別に豊富に示し、自分が伝えたいことを表現するときに使えるようにしています。(p.142 対で覚える形容詞、p.143 前置詞) ●授業以外の場でも英語の音声や動画を視聴できるよう、二次元コードを付しています。(p.19 Unit 2など) 二次元コードを利用できない場合は、p.1に示すURLからアクセスすることができます。教師用指導書付属のメディアにも音声を収録します。 		
<p>⑨ 言語に関する配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●言語力育成への視点から、国語との関連を図っています。日本語で親しんだ物語を英語の原文で読む活動を取り入れています。(pp.110～112 Further Reading) ●目的に合わせた英語の手紙の書き方について、わかりやすく示しています。(p.57) また「学び方コーナー」で相手意識を持ったコミュニケーションの方法についてまとめています。(p.5 学び方コーナー4) 		
<p>⑩ 他教科との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●CLIL（内容言語統合型学習）への対応として他教科での学習を生かすもの、現代的な諸課題に対応するものなどを扱い、生徒の理解を深めるようにしています。(全体) ●「資料の読み取り」の力を育成するため、図表や非連続型テキストを含む教材を扱っています。(p.73、p.74、p.76、p.90、p.108) ●世界中で使われている情報メディアや、SDGsを扱っています。(p.38 Learning Technology in English、p.68 Learning Social Studies in English) 		
<p>⑪ 造本上の工夫（学習への効果）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導時間を配当するページは増やさず、生徒が発信するためのヒントを探し出す資料を紙とデジタルで手厚く用意しました。 ●A4判を採用し、デジタルでは対応できない手書きでの書き込みスペースを保障しました。(pp.135～141 資料編 Unit Activity Plus、p.149 Small Talk) また、判型を大きくすることで写真等のレイアウトやデザインをダイナミックに、かつ見やすくしました。 ●ページ数を抑えた上、最大限に軽量化された、薄くても裏写りしにくい用紙を使用しています。 		

2 対照表

2年	図書の構成・内容・主な言語材料		学習指導要領の内容		該当箇所 ページ	配当 時数
			2 内容	3 指導計画の 作成と内容 の取扱い*		
Unit 0	My Spring Vacation 春休みにしたこと	1年生の学習事項	(1)、(2) (3) ①イウエ オカ、②	(2) エカ	6~7	2
Unit 1	What can we experience on a trip? シンガポールへの旅行	be going to / 助動詞will / show+A+B / call+A+B	(1)、(2)、 (3) ①イウエ オカ、②	(2) エカ (3) イ (ア) (イ) (ウ)	9~16	8
Unit 2	What is local food? 食の多様性と変化	接続詞when / if / because / that			19~26	8
Unit 3	What kind of job are you interested in? 職業体験と将来の夢	不定詞(副詞的・原因を表す 副詞的・形容詞的用法) / It is ... + to			29~36	8
Unit 4	What is important in a homestay? ホームステイでの 国際交流体験	have to / 助動詞must / 動名詞			49~56	8
Unit 5	What design is good for everyone? ユニバーサルデザインの意義	疑問詞+to / 主語+動詞+ (人) + 疑問詞+to / 主語+be 動詞+形容詞+that			59~66	8
Unit 6	How can we make a good presentation? 好きなトピックについての 調査と発表	比較表現			69~76	8
Unit 7	What are World Heritage sites and their problems? 世界遺産の価値	受け身			89~96	8
Stage Activity	1. My Favorite Japanese Food		(1) ウ、	(2) カ	40~43	4
	2. My School and School Life		(2)、(3) ①		80~83	4
	3. Let's Have a Discussion		イウエオカ		100~103	4
Real Life English	1. 機内放送、2. 旅行先で、 3. 仕事についてのインタビュー、4. ホームステイのお礼状、 5. アナウンス・案内、6. 電車の乗りかえ、7. 買い物		(1) アウ、 (3) ①イウエ カ、②	(2) イ	17、27、 37、57、 67、77、97	各1
Let's Read	1. History of Clocks		(1) ウ、 (2)、(3) ①	(3) イ (ア) (イ) (ウ)	44~47	4
	2. A Glass of Milk		ウエ		84~87	4
	3. Pictures and Our Beautiful Planet				104~108	5
Grammar for Communication	1. 5つの文構造、2. 接続詞、3. 不定詞、4. 助動詞、 5. 比較表現、6. 受け身		(1) エ	(2) エ	18、28、 39、58、 78~79、98	各1
Learning Technology in English Learning Social Studies in English			(3) ①ウエ	(1) オ	38 68	各1
合計98						

*学習指導要領の内容「3 指導計画の作成と内容の取扱い」について、特記のない項目は図書の構成全体について扱う。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-68	中学校	外国語	英語	第2学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
2 東書	英語002-82	NEW HORIZON English Course 2		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに関する事項	ページ数
112	Further Reading I'll Always Love You	2	第2 2 (1) エ ※上記項目において過去完了形と仮定法 過去完了は扱うこととされていません が、原文のまま掲載しました。	0.25
			合計	0.25

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等）以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容